

## 今日のトピック 豪ドル相場は下落（2020年2月） 利下げ期待と新型コロナウイルスは豪ドルの不透明要因

### ポイント1 豪ドルは下降 1豪ドル=72円台半ばに下落

- 豪ドルの対円相場は、昨年末に米中貿易協議の進展により76円台半ばまで上昇しましたが、1月下旬以降は下落に転じ、足元は72円台半ばまで下落しました。
- 大規模な森林火災による経済への悪影響に加え、中国の新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念されました。感染拡大の他、経済の落ち込みが予想され、中国経済と関連の強い豪ドルは売られました。

【豪ドル円レートと豪日金利差】

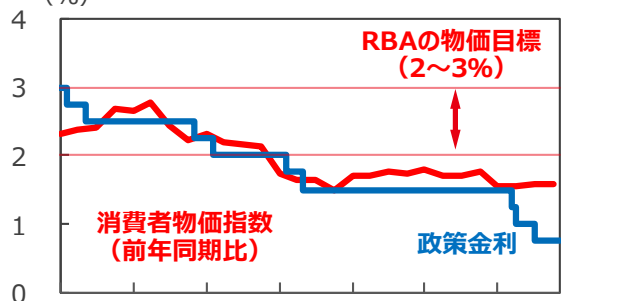


(注) データは2018年1月1日～2020年2月3日。  
日豪金利差は3年国債利回りの差。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### ポイント2 豪州中銀は金利据え置き 必要であれば一段の金融緩和示唆

- 4日、豪州準備銀行（RBA）は政策金利を0.75%に据え置きました。一部で利下げが予想されていたため、足元の豪ドルは小幅に反発しました。
- RBAは、2020年の豪州の実質GDP成長率を、低金利や先の所得税減税、インフラ投資の継続などの効果から前年比+2.75%、2021年には同+3%の成長になると見込んでいます。一方で、森林火災や中国の新型コロナウイルス感染拡大の影響が一時的に豪経済を圧迫することを指摘しました。
- RBAは、低金利の効果が現れるには時間がかかるため据え置きを継続するとし、必要ならば一段の金融緩和を行う準備があることを示唆しました。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2019年10-12月期。  
消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2020年2月4日。  
(出所) Datastream, Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開 豪ドルは不透明感が強い動きに

- 当面の豪ドルについては不透明感が強く、不安定な動きを予想します。新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかっておらず、世界景気への影響が懸念されています。また、豪州の森林火災が国内の消費センチメントを冷やす公算が高いことも悪材料となっています。但し、足元では雇用や住宅価格などの指標に明るさが見られており、新型コロナウイルスの感染拡大が収束に向かいリスク回避的な動きが落ち着けば、豪ドルも回復に向かうと見られます。

### ここもチェック! 2020年 2月 4日 オーストラリアマーケット動向 (2020/2/4) 【ウィークリー】 2020年 1月24日 懸念される『新型コロナウイルス』の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。